

# 会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 24年 2月 23日(木曜日)	開催時刻	13時 30分から 14時 40分
会議名	丸子地域協議会(平成 23年度第 11回)		
出席委員	齊藤会長、北村副会長、生田委員、内田委員、倉沢委員、上坂委員、笹井委員、佐藤委員、清水委員、関委員、滝澤委員、成澤委員、丸山委員、宮下委員、村松委員、山越委員、横山委員【欠席】池内委員、中澤委員、松山委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、下村地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、松井健康福祉課長、矢島産業観光課長、小相沢建設課長、小林消防課長、高野丸子学校給食センター長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

## 会議次第

### 1 開会(宮澤センター次長)

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

### 2 あいさつ(齊藤会長)

本日は、報告事項 1件、その他事項 3件を予定しており、御審議をお願いしたいと思えます。任期も残すところ 1ヵ月ほどとなりましたが、よろしくお願い致します。

### 3 報告

(1) 専門部会における検討状況について(各部会長より部会での協議内容を報告)

#### 【わがまち魅力アップ応援事業専門部会】

アンケート結果の確認と問題点等の総括について

交流会の詳細について

魅力アップ応援事業の審査に関する内容確認等について

- ・以上 3点について検討。意見等の詳細は資料参照。
- ・交流会開催の案内は 1月に発送済み。20数名が出席予定。各団体が有効な情報交換の場としていただけるよう工夫したい。

資料：丸子地域協議会専門部会要旨(魅力アップ応援事業)

#### 【公共交通専門部会】

- ・前回に続き、高齢者クラブ宮下会長らを交え討議。

(これまでの経緯について報告)

- ・7月 21日の分散会からスタートし、9月 22日に第 1回研究会、その後、専門部会に昇格したわけだが、我々委員は、まりんこ号の実情をあまり知らなかった。建設課から提示された資料を見てビックリする方が大半だった。配布された資料によると、平成 22年度上田市のまりんこ号に対する補助金は 1,557万 3千円、22年度の利用者は 8,541人、利用者一人あたりの補助金は 1,823円、上田市民一人あたり 95円の負担ということで、建設課の話では、平成 23年度はもっと厳しい数字になるのではないかと懸念しているということだった。専

門部会の委員の多くから、まりんこ号の継続が最も重要であるという意見が出され、それに基づき色々討議し、前回までに以下5項目を検討した。協議内容、結論については資料参照。

まりんこ号利用者の運行実態とデマンド交通について（建設から資料説明）

まりんこ号の運行ルートおよび時間について（建設課から変更案提示）

公共交通（千曲バス、JRバス）と許認可について（建設課から説明）

料金について

アンケート調査について

・2月14日の丸子地域自治会長連絡会にて、丸子地域全26自治会のうち19自治会（1自治会につき10人）にアンケートを依頼。3月2日までに回答をいただく予定。

・今後の部会では、アンケート結果を踏まえ、細部について討議していきたい。

資料：丸子地域協議会専門部会要旨（公共交通専門部会）

#### 4 その他

(1) 研究会における検討状況について（各会長より研究会での協議内容を報告）

【地域の産婦人科医療を考える研究会】

・2月15日に研究会を開催。

・今年度のまとめと次期地域協議会への申し送り事項ということで話し合う。

【荒廃農地解消研究会】

・1、2月の研究会開催はなし。

・前回の報告に補足。産業観光課から色々お話を伺った中で、研究会としては、荒廃地だけではとてもできないということで、魅力アップ事業の一環として検討していった方がいいのではないかという意見もある。

・最後の研究会では、来年度へ向けてのお話をしたい。

【緊急時連絡カード・マップに関する研究会】

・本日までのところで取りまとめ、次回報告したい。

(2) わがまち魅力アップ応援事業の審査について（事務局）

・資料に基づき、選考要領について説明。

・応募状況は、自治会対象の個性あるふるさとづくり応援事業は継続事業で6件の申請があった。市民活動団体対象の特色あるまちづくり応援事業には新規2件の申請あり。

・市民活動団体新規応募のあった2件を3月15日の協議会で選考する。

・昨年度までの変更点として、申請団体によるプレゼンテーションと質疑は、事務局も申請団体に同席してフォローする。採否の決定については、平均点だけでは判断せず、条件付採択を実施する。

資料：特色あるまちづくり応援事業（市民活動団体対象）選考要領

【魅力アップ応援事業専門部会長から専門部会での討議内容含めて補足説明】

・魅力アップ応援事業は、地域の市民活動を応援するものとしてある。落とすための評価ではなく、なんとか応援して活性化するための評価という目で是非見ていただきたい。足りない部分を地域協議会の中でもフォローできるような方向性を打ち出していけたらと考え

ている。

主な質疑等の内容

(委員) 選考に関して、当日に欠席した委員は除外となっているが、協議会委員が全員投票するというわけにはいかないのか。

(事務局) 申請団体のプレゼンを聞き、評価していただいているので、当日参加された委員さんのみの審査になる。

(委員) 申請件数があまり多くないのは残念。以前はプレゼンや質問の時間をかなり厳しく限定していたが、今回は非常に少ないということで、十分理解ができる時間は取れるのではないかと思う。時間的にもあまり厳しい設定をしない方が良いと思うので、御配慮をお願いしたい。

(3) 次回以降の会議等日程について

- ・ 第 12回丸子地域協議会 平成 24年 3月 15日 (木曜日) 午後 1時 30分  
丸子公民館 3階 会議室  
(わがまち魅力アップ応援事業 平成 24年度選考協議)
- ・ 第 13回丸子地域協議会 平成 24年 3月 21日 (水曜日) 午後 1時 30分  
丸子地域自治センター4階 講堂  
(わがまち魅力アップ応援事業 平成 23年度実績報告会)
  
- ・ 上田市自治会連絡会定期総会での講演会 演題:「住民の自治と地域づくり」  
平成 24年 3月 14日 (水曜日) 午後 3時 上田文化会館ホール
- ・ 上田市立産婦人科病院竣工記念講演会 平成 24年 3月 24日 (土曜日) 午後 3時  
ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール

(4) その他

(委員) 今まで丸子地域だけ丸子モデルとして不燃ごみを 3分別していたのが上田に統一されるという話を聞いた。ごみは市全体の問題だと思うが、モデル地区として 5年間丸子地域だけ 3分別してきたわけだが、それについて地域協議会には全く報告などが出ていない。やはり市全体の問題ということで出てこないのか。

(市民生活課長) 丸子地域について、モデル地区として 3分別するというので、現在赤い袋にプラスチック、金属、ガラス・陶器に分別していただいているが、丸子地域以外は 1つの袋に全てまとめて出しているという状況である。昨年度、モデル事業を始めて 3年目になるということで内容の検証を行い、この結果に基づき今後どのようにするかということで話し合ってきたところである。まず、最初に女性団体に検証結果を説明した。また、住民意見として「分別がなかなか困難になっている」という状況も意見として挙げさせていただいた。次に、自治会長連絡会に同じ検証結果を説明し、アンケート調査をさせていただいた。アンケートでは、約 3分の 2の自治会からそろそろ 3分別はやめて、市の統一した方法でもいいのかという意見をいただいた。これは、分別しても分別しなくてもリサイクルされることに大きな差がないという検証結果の中で、そのような意見をいただいたのが多くあっ

た。また、コストに関しては 3分別をやめれば今よりも安くなるのかという検証を行っている。委員さんが言うように、ごみ問題は上田市全体の問題という中で、上田市の全体と地域との兼ね合いなどについて検討しており、まだ最終的な結論には至っていない。しかし、コストの問題が解決できれば、統一したやり方のごみで出していきたいと思っている。

(会長) 検討中ということか。

(市民生活課長) はい。統合の方向で検討中ということ。

(委員) 地域課題ということで、地域協議会にも問題として早い時期からあげていただければ嬉しかった。今のように、いつも報告だけではそれに対しての意見が出せない。各方面に諮ったようだが、地域協議会にも諮っていただければ良かった。

(委員) 今の報告を聞いて少し残念。廃棄物の処理としては、丸子地域は上田市全体から見ると前進した方のトライアルをやっていたわけである。それが、どちらかというレベル的に下の方へ統一する形で決定をしようとしている。先行きに対して、どうしても問題が多すぎてトライアルを広げていくことができないという明確なものがあってトライアルをやめて元の方へ、逆行する方へ持っていくというはっきりした理由、皆が納得できる理由は、お聞きした中では感じられなかった。丸子のトライアルについて、ゼロにするという方向ということで非常に残念。先行きに対して、そちらを広げていくという決定的な理由は何か。

(市民生活課長) ごみ処理やりサイクルに対する考え方や意識が高いということで、3分別が行われきたと思っている。その反面、分別する 3つの袋をいっぱいになるまで置いておく場所がない、高齢者等が分別をするのが分かりにくいといった意見もある。このような話の中で、こうした方がいいのかと考えたのもひとつ。分別技術も色々進み、コスト面においてしっかりしたものはないが、今後も処理技術は進歩していくのであろうと思う。そのような観点、住民の負担の軽減、住民のごみの分別の仕方等考え、団体や自治会連絡会の皆さんにお諮りして考えていったということ。

(委員) 丸子で分別が非常に困難で続けられないという事態があって万やむを得ないということなら一つの理由、背景になると思うが、今まであまりそういう話は聞かなかった。一部高齢者で分別が難しいという個別事例はあるかもしれないが、丸子地域全体として果たしてそういうことがあったのか。

(市民生活課長) そういうことはありません。

(委員) ごみ問題は市民全体の問題だと思う。丸子にこういう問題が持ち上がった時に、住民挙げての問題意識を提起することで、住民のごみに対する意識が変わってくると思う。自治会だけとか女性団体だけとかいうのではなく、皆でごみ問題を考えるような意識改革を促すためには、皆で考えることも必要だと思う。私たちが消費生活展でごみ問題を取り上げた時に、そこへ見に来てくれた方たちは「一生懸命 3分別しているのにどうして一緒にしてしまうのか。」と、殆どがそういう意見だった。こういうことを契機に、住民に分別を促すためにも、もう少し全体的な話し合いを持っていただきたい。

(委員) 統合の方向で検討中ということだが、目指す期限は決まっているのか。

(市民生活課長) やるならば、区切れのいい早い時期ということで、4月 1日を当初目標としていたが、コストの問題をもう一度精査してやらないと簡単に今よりも安い状況にはならない。そこをクリアしてからであるが、24年度中には実施したいと考えている。

(センター長) 不燃ごみの出し方の関係で補足したい。丸子地域だけが 3分別を行ってきた。

モデル事業という形で3年間、2021、22年度という形で立証しましょうということで始まったものである。22年度が終わり、20年度からの3年間について、ごみ処理のコストやリサイクル率等について検証を行った。丸子地域と他地域との比較をしたわけであるが、最終的なリサイクル率については、3分別をして出している丸子地域と、一緒に出している他地域との差はなかったということ。最終的には皆リサイクルにまわり、リサイクルにまわらないのは残渣ということで埋め立て処分ということになる。つまり100%リサイクル。分別方法による差異は見られないということが検証結果の一つ。もう一つはコストの問題。3年間を比較したときに丸子のコストの方が高かった。収集運搬経費と中間処理費をごみ1kg当たり、単位当たりになおすと、一緒に出している他地域の方が、分別して出している丸子地域より安かった。私自身が思っていたのは、排出者（ごみを出す人）が細かく分ければ分けるほど処理経費は安くなるので、丸子地域の方が処理経費は安いはずだと思っていた。ところが、検証の結果は逆だった。そうすると、リサイクル率の差異は見られない、経費は丸子の方が高上がりとの結論が得られたので、理解を得ながら統一した方法、一緒に出していくという方法でもいいのではないかとということで、今年度1年間色々なことをやってきた。今ここで足踏みをしているのは、処理経費を一緒に出した時に、新年度の見積もりを取ったら、丸子地域の方が高くなってしまった。リサイクル率100%というのは変わらなかったが、処理経費が安くなると思っていたのに、思っていたほど安くないので、さてどうしたものかという話で、現在統一の方向では検討しているが、いつから統一していくかの結論が出せずにいるという状況である。このことは、先ほど委員さんもおっしゃっていたことであるが、当然地域課題ということであり、地域協議会の方々に報告していかなければいけないと思っている。4月1日から統一することが決定すれば当然報告するつもりでいたが、今のような状況では、まだ報告する時期に至っていないということで足踏みをしている状況である。ごみの分別方法は、やはりその人その人の哲学がある。それは絶対に排出者が細かくしていくべきという話もあるだろうし、完全には分別できないのだから専門の人に分けてもらってもいいのではないかとこの考え方もあり、なかなか歩み寄りが難しい問題ではあるのだろうと思う。歩み寄りが難しいから丸子地域で3年間のモデル事業を実施したというような形にも表れている。なかなか意見の一致が得られづらいことだと思う。では、どうしていくか。行政の責任において、色々な意見はあるが、このようにやらせてもらいたいとお願いしていけばいかざるを得ないのではないかと考えている。現在、先ほど申し上げた状況にあるため、急には少し難しいかなという話もある。また、もう一つは、上田地域広域連合で進めている統合クリーンセンターの問題。統合クリーンセンターには、リサイクルプラザが建設されるということで、そこで統一したごみ処理、中間処理になる。統合クリーンセンターの建設時期にも関係してくるが、その時にはやはり全体を統一した形にしていかなざるを得ないだろうと思っている。それまで、若干まだ時間がかかる。その間、丸子地域はどうするのか。先ほど申し上げたコストの問題もあり、今しばらくは今の状態で進まざるを得ないのかなと考えているのが現実のところである。

（委員）前回の協議会資料で出していただいた井戸水利用調査の結果について。「飲用可」「飲用不可」とあるが、「飲用可」というのは、現在飲用水として使われているものか。

（センター次長）報告の中では、報告者が飲めると報告してきたということのようで、こちらで飲めるか飲めないかを判断しているものではない。

(員) 個人のお宅で使っているとも考えられるということか。

(センター次長) そのとおりです。

(委員) 危機管理室が今後どういうことをやってくれるのかわからないが、セシウム等が井戸水に入るという可能性は。また、災害時提供可能な井戸の数が書かれているが、飲用水としてやるのであれば、なるべく早く調査してもらいたい。いつかやりますということでは間が開きすぎる。

(センター次長) 現在は、危機管理室で調査をさせていただいたという段階で、まだ方向性等についても、水質の問題部分もあり、まだそこまでは結論を出していないということ。また、使えるか使えないかの結論も出ていないと思う。万が一の時に、井戸水を使って対応できるのかどうかの判断をさせていただく上での調査だと考えている。もちろん、井戸水が飲めるということでは使っている方も大勢いる。そういう意味では、災害時の活用が可能ではないかということは考えられる。ただ、それを無条件に使うということに関しては、まだまだ検証しなければいけないと思う。これを即、災害時の活用を活かすということまではまだ結論が出ていないということで御理解いただければと思う。

(委員) 災害時提供可能な井戸の数が 340 ということだが、この話がこのままになってしまえば、井戸が徐々に減り、いざ使いましょうという時にはなくなっていたという場合も考えられる。これだけ調べてもらったのだから、もう一度話をしてもらおうなど、なんらかの方法を取った方がいいのではないか。

(センター次長) どんな対応をしていくかについて、危機管理室へ確認を早めにしたらどうかという意見が地域協議会の委員さんからもあったので早めに検討いただきたいという話はさせていただきたいと思う。確かに、上水道が普及しているため、殆ど使われておらず、どんどん減っていく可能性は大いにある。どのように使うかは非常に難しいところである。危機管理室とよく話をしてみたいと思う。

(委員) 魅力アップ応援事業の専門部会の関係で、2月 26 日の日曜日、13 時半から丸子公民館で交流会の開催を予定している。参加者 20 数名という中で、専門部会の皆さんにサポートをお願いしたいと思っているが、是非関心とお時間があれば参加していただきたい。

(会長) 部会の委員さんには積極的に参加していただけるが、他の委員さんも是非都合がつけば御参加いただきたい。

(センター次長) 何点が報告したい。1 点目、丸子修学館高校と上田市商工会、上田市(丸子地域)でパートナーシップ協定を結びたいということで考えている。これは、第 8 回地域協議会の基金活用事業の中でも少しふれたが、丸子修学館高校、商工会、上田市においては、地域の中で修学館高校に様々な地域貢献活動をしていただいていることもあり、これらの多くの活動に三者が連携してやっていることも踏まえ、昨年の 11 月頃から地域協議会で報告させていただいた頃から話し合い等を重ねてきた経過があり、その中で、協定を結びたいということで話がまとまった。協定の目的としては、これまでやってきたものを引き続き発展させていきたいという思いがあるということ。もう一つには、高校生の人材教育、キャリア教育。人材育成の部分を踏まえ協定を結んでやっていきたいということ。協定の中でパートナーシップ会議を持ち、もちろん三者が会議を持つわけであるが、そこには地域の皆さんにも加わっていただいた広い会議を持って色々な活動をサポートしていくことを考えている。今月の 28 日、4 階講堂で調印式を予定している。来賓として地域協議会の正副会長にも出席い

ただき、調印をさせていただきたいと思っている。これまでの活動を一過性のものとはせず、継続的なものにしてきたいとの思いからの調印。さらなる発展をめざしての調印と考えている。協議会の皆さんにも色々と御協力いただく場面も出てくるかと思うが、よろしく願いしたい。

2点目に、地域内分権について。前回の協議会でセンター長から地域内分権の確立に向けた取り組みということで、市としても地域内分権の取り組みについて、今後の進め方をまとめてきた経過がある。それを、皆様に報告させていただきたいと考えている。次回3月15日の協議会は魅力アップ応援事業の審査ということだが、その前に時間を取らせていただき、地域内分権に関しての取りまとめをしてきた市民参加・協働推進参事からこの協議会の場で説明をさせていただければと思っている。

3点目、第8回地域協議会で地域振興事業基金の活用事業について報告させていただいたが、これを予算として上げさせていただいた。手持ち資料に第8回の資料があれば見ていただきたいが、9項目を基金事業として掲載している。これらについて、予算を上げさせていただいたが、若干、予算や項目が変わってきているので簡単に報告したい。オート三輪消防車イベント参加事業349千円、依田川リバーフロント市民協働事業ソフト部分710千円、ハード部分6,000千円、わがまち魅力アップ応援事業補助金7,000千円、丸子地域産学官連携事業500千円、チッパシュレッダ(枝粉碎機)購入事業は2台を1台に変更して4,160千円、丸子中心市街地周辺排水対策事業は22,000千円、市道沿線支障木伐採委託事業5,500千円。については、基金活用ではなく一般財源で対応。丸子公民館改修工事2,412,100円、丸子文化会館開館20周年記念事業3,000千円。後から追加させていただいた地震防災情報システムの話、前々回の協議会で少しお話させていただいたが、これについても基金事業ということで1,418千円の予算を要求している。今申し上げた金額は基金の金額であり、基金の他に一般財源で充当したり、他の財源で充当したりしており、総事業費ではない。例えば、丸子公民館は500万円が240万円になったと言ったが、500万円が総事業費で、基金分240万円ということで、全体としては約500万円の総事業費になっているということである。

5 閉会 14:40 地域協議会終了後、部会開催(第2,3会議室)